
トリスティン魔法学院に入学しました

和井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トリスティン魔法学院に入学しました

【Nコード】

N4083BA

【作者名】

和井

【あらすじ】

女オリ主（転生者にあらず）なトリスティンの伯爵令嬢の目を通した騒動の数々を書きたいと思います。作者は原作も未読でアニメも見えていないので、知識は他の2次創作とウィキが頼りです。

敬語もあやふやなので、稚拙な文章だと思いますが宜しくお願いします。

入学（前書き）

知識がウィキなので、自己設定が多いかもしれません。

入学

とうとうこの日が訪れたわ。

お父様とお母様が出会った場所、トリスティン魔法学院に入学する日だ。

ルミエール伯爵家の長女として生まれた私には当然物心付く前から婚約者がいたし、彼のことは幸いにも大好きになれたんだけど、お父様とお母様の大恋愛を聞いて育った私はどうしても魔法学院に入ってみたかった。アンヘル（婚約者よ。モンタニ 伯爵家の長男なんだけど、気さくでとっても優しいの）は、こんな私の事を良く知っていたから、私の気が変わっちゃうんじゃないかってとても心配してたけど、最後には渋々ながら許してくれたわ。確かに私は両親の大恋愛に憧れはあったけど、アンヘル以上に好きになれる人会えるなんて思えないし、いずれ伯爵家の当主夫人になるからには学院で人脈を作っておくのも大切だって説得したの。本音を言っと、結婚する前に他の世界を見てみたいっていうのもあるんだけど。

私はどうやら好奇心が強いみたいで、お母様に言葉遣いも含めて伯爵令嬢らしくないって常々嘆かれていますけれど、私は私だもの。こんな私を婚約者として決められて、それでも私を理解して好きになってくれたアンヘルの事が私はとっても大好き。それにちゃんと人前に出ても恥ずかしくない様に淑女教育だって受けたわ。だからきつと大丈夫。絶対に家名を汚すような事はしないって誓うわ。お母様。けれど、日記の中では淑女で無くても許してね。

学院に到着して驚いたのは、年の近い子が沢山いたこと。人が集

まる場には何度も行った事はあるけれど、同年代ばかりというのは初めて。これだけで皆を説得した甲斐があったと思ったわ。集団生活は実はとても不安だったんだけど、周りの皆だって同じなんだと思えば耐えられそう。それに、トリステイン以外の国から来ている人もいるのよ。色々話を聞かなくちゃ損だわ。

最初の一年は毎日がとても刺激的で、飛ぶように時間が過ぎたの。入学して暫くはアンヘルはまだ心配してたけど、この学院に入学するのは皆貴族の子弟だもの。仲良しになった学友は大抵婚約者がいたし、それに「いかにも婿入り先を探しています」っていう感じの男子学生は、私というより私の家名を見ているのが明け透けで、はつきり言って全然好感なんてもてなかった。素直に手紙にそう書いたらアンヘルも身に覚えがあったのか納得してくれたわ。そういえば、友達になったキュルケは親に決められた婚約者が嫌で、ここで素敵な殿方と会おうんだって言うてるけど、此処までハッキリ言われると逆に好感が持てるから不思議だわ。でも、中には彼女の事が嫌いな人もいるみたい。確かにキュルケは貞淑という言葉と縁のなさそうな女性ではあるけれど。

その最たる存在が、ヴァリエール公爵家の三女のルイズ。お互いの実家が代々小競り合いを繰り返してきている間柄だから、しょうがないともいえるんだけど。でもルイズの場合、なんだか誰とも仲良くなりたくないみたい。いつも一人で魔法の訓練をしているもの。彼女はトリステインの大貴族ヴァリエール家の令嬢だけど、何故かコモンマジックすら使えないみたい。いつも魔法を使おうとしては爆発をおこしてしまって、ついた渾名がゼロのルイズ。本来ならヴァリエール家を敵にまわすようなそんな渾名をつけるなんて考えられない事なんだけど、誰とも仲良くしようとしなくて、その癖いつも実家の自慢ばかりで傲慢な態度のルイズを嫌っている子は沢山いるし。それに彼女は今はヴァリエール家の三女だけど、いず

れはワルド子爵夫人になる事が決まっているし、皆早々に仲良くするのをやめたみたい。こういう点では貴族社会は厳しいと思うわ。私も今は実家もアンヘルの家も安泰だから、皆仲良くしてくれているのかと思うと怖くなるもの。将来、アンヘルの助けになる為の人脈も作りたいけど、生涯仲良く出来そうな友達も欲しいと思うわ。

入学（後書き）

私が書くこの世界では、貴族の子弟の全員が魔法学院に入学する訳ではありません。お金の無い貴族もいるでしょうし、貴族に嫁ぐ女性に必要なのは、魔法より家庭を守る知恵だとも思いますし。ただ、将来の人脈作りや教育の仕上げとして入学する事もあるということにしています。

次回から本編に入る予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4083ba/>

トリスティン魔法学院に入学しました

2012年1月10日20時54分発行